

イソレピス ライブワイアー

学名: *I. cernua*

種子粒数の目安: 473 粒(マルチペレット種子)/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.1 のあいだ、また初期培地の養分は中庸(EC は 0.75mmhos/cm(2:1))を維持する

播種

各マルチペレットからは、だいたい 3 から 4 の個体が発芽する。プラグトレイのサイズは 288 から 406 穴の範囲を推奨している。望むのであれば、78 や 128 穴などの大きな容量のトレイにも適合する。ライブワイアーの発芽においては、覆土は不要

ステージ 1 - 発芽には概ね 6 日を要する

地温: 18 から 22°C。ライブワイアーは、18°C前後で最もよく揃って発芽する

光条件: 発芽と苗の初期生育時には光が必要

水分: ステージ 1 では、水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持

湿度: 幼根が発生するまでは相対湿度を 100%に維持

ステージ 2

地温: 18 から 21°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルを標準/中庸(level 3)まで下げて、根が培地中をしっかりと行き渡るように促す

肥料: リン酸の低い硝酸態肥料を、レート 1 の濃度(100ppm(N)以下、EC:0.7mS/cm 以下)で与える

ステージ 3

地温: 18 から 20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルをやや乾燥(level 2)まで下げて、次の水やりの前には、培地の表面が薄い茶色に乾くような状態とする

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100 から 175ppm(N)以下、EC:0.7 から 1.2mS/cm 以下)に上げる

矮化剤: 不要

ステージ 4

地温: 18 から 19°Cが最適条件

光条件: 温度管理が適正であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

NOTE: ライブワイアーのプラグは、十分に水が与えられた条件であれば、苗の移植後、2 週間はその後の生育に影響を及ぼすことなく、そのままの状態が保持される

鉢上げから出荷まで

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また初期培地の養分は中庸とする

温度

昼間温度: 19 から 23°C

夜間温度: 18 から 19°C

※ 株は 10°Cくらいの低温条件でも生育するが、出荷までの期間がかなり遅くなってしまうので注意する

照度

30,000 から 54,000 ルクス(3,000 から 5,000 f.c.)の範囲とする

かん水

ライブワイアーは、湿潤から多少水分のある、比較的ウェットな条件を好む植物である。株は水辺や沼沢地などでもよく育つ。乾かしてしまうと、葉がすぐに黄色くになってしまうので注意が必要

肥料

レート 3(175 から 225ppm(N)、EC:1.2 から 1.5mS/cm)を週に 1 回の頻度で与える。株は濃度の高い肥料、あるいは高頻度にも耐える。多肥管理によって、株の生育は早まる

PGR(矮化剤)

ライブワイアーは自然にコンパクトな株に仕上がるので、矮化剤は原則不要である

日長時間との関係

ライブワイアーは長日植物である。日長時間が 12 時間以上になると開花する

ピンチ

ピンチは不要

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 から 406 穴トレイ): 約 5 週

72 あるいは 128 穴トレイを用いる場合は、プラグ育苗で 1 週余計にかかるが、移植後の期間は逆に 1 週早く仕上がる

鉢上げから出荷適期まで平均的な週数:

コンテナ・ポット サイズ	株本数/ ポット・コンテナ	鉢上げ後、 出荷までの週数
カットパック	1	6-7
6cm ポット	1	4-5
9-10.5cm ポット	1	6-7
15-16cm ポット	3	6-7
15-20cm ポット	3	6-8

育苗期間は約 5 週

病例等

とくに大きな病例、虫害例の報告はない

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。